

米倉教公の月間為替市場見通し

3月号

ドル/円予想レンジ 109.90 - 115.00円

『3月は政治イベントも多く荒れ模様！』

ドル/円の3月勝敗表

3月の相場	始値	終値	値幅	変動率	陽線・陰線
1995年	96.62	86.50	-10.12	10.47%	陰線
1996年	105.21	107.32	2.11	2.01%	陽線
1997年	120.30	123.80	3.50	2.91%	陽線
1998年	126.05	132.92	6.87	5.45%	陽線
1999年	119.36	118.85	-0.51	0.43%	陰線
2000年	110.16	102.68	-7.48	6.79%	陰線
2001年	117.32	126.13	8.81	7.51%	陽線
2002年	133.50	132.74	-0.76	0.57%	陰線
2003年	118.20	117.96	-0.24	0.20%	陰線
2004年	109.02	104.21	-4.81	4.41%	陰線
2005年	104.58	107.13	2.55	2.44%	陽線
2006年	115.77	117.75	1.98	1.71%	陽線
2007年	118.50	117.62	-0.88	0.74%	陰線
2008年	103.61	99.67	-3.94	3.80%	陰線
2009年	97.73	98.98	1.25	1.28%	陽線
2010年	88.85	93.45	4.60	5.18%	陽線
2011年	81.77	83.14	1.37	1.68%	陽線
2012年	81.13	82.80	1.67	2.06%	陽線
2013年	92.54	94.19	1.65	1.78%	陽線
2014年	101.46	103.22	1.76	1.73%	陽線
2015年	119.70	120.09	0.39	0.33%	陽線
2016年	112.65	112.58	-0.07	0.06%	陰線
平均			0.44	2.89%	13勝9敗

★3月は円高になりやすい月

1995年以降の過去22年間のドル/円では、13勝9敗と始値から終値で陽線なることが多くとなっている。一方、値幅での平均値は0.44円の円安となっている。ただ、今年の3月相場とほぼ同水準となっている。変動率は始値から上下に2.89%の変動率となっている。3月は、本邦企業の本決算が集中していることから、リパトリ（本国送金）が多いことから、印象的には円高となるのではないかと考えやすい。しかし、過去の実績では円安となりやすいことが分かる。昨年もほぼ7銭だけ円高になったが、それまでは7年連続大幅に円安となっている。ただ、3月中旬前後までは、やはりリパトリの動きはある。ただ、決算がみえてきたところで、来年度の運用が始まることから再度海外投資に資金が向けられるからと思われる。

※この勝敗表は単純に終値から始値を引いた数値となっている。また陽線を勝ち、陰線が負けとした。



★ドル/円週足では円安基調を継続

週足チャートでは、2月21日週以降13週線が上値抵抗ラインとなり徐々に上値を切り下げ下値も切り下げる下落基調となっている。さらに、月足20ヵ月線の113.20円を確り下抜けしたことで、ヘッジファンドなどの円売りの巻き戻しや、円買い・ドル売りのポジション形成に動いている可能性が高い。週足ストキャス・スロー（パラメータ：14、3、3、20、80）は、%K：33.92、%D：50.12と買われ過ぎ域からかい離を拡大しながら下落基調となっている。ただし、下値には各移動平均線が位置しており、200週線の109.909円が下落時のサポートとなりやすい。トランプ相場の50%押し109.91円とほぼ同水準。中期的には、26週線と52週線がゴールデンクロスしていることで、上昇基調は維持されている。反転するには前週の上値・下値の切り上げる必要がある。

★まとめコメント

2017年に入ってから週足では上値切り下げ・下値切り下げの下落基調の典型的動きとなっている。また、13週線（赤線）を下回ってきており、確り下抜けしたことから13週線の114.76円近辺がレジスタンスラインとなりやすい。日本時間3月1日午前11時から、トランプ米大統領が就任後初めての議会演説が予定されている。演説内容は外交・安全保障政策を含め、減税やインフラ投資などの経済政策について方針を明らかにする見通し。広範なものになるが、トランプ米大統領が選挙中から掲げている景気押し上げのための政策に関して一段と踏み込んだ具体策が期待されている。一部には、就任演説と同じような内容にとどまり、具体策の提示が遅れた場合は、失望感からドル売りが強まり、リスク回避の動きに拍車がかかる可能性がある。

また、3月3日には、イエレン米FRB議長とフィッシャー米FRB副議長の講演もあり、発言内容が注目される。FRB議長と副議長の発言内容がハト派寄りならドルは一段安となりやすい。また、3月14-15日はFOMCが開催される。市場では3月の利上げは見送られるとの見方が多い半面、一部では3月の利上げもあるとの見方もあり、見送られた際は瞬間的にはドル売りに傾きやすい。ただ、次回の5-6月の利上げに含みのある声明が発せられると、ドル買いの動きとなりやすい。

欧州では15日にオランダの総選挙が行われる。市場ではほとんどリスクとして見られていないが、右派（EU離脱派）が議席を伸ばすとユーロ安につながる可能性がある。また、英国がリスボン条約を発動してEU離脱通知することで、離脱へ向けた交渉が本格化することになる。一方で、スコットランドの行政府が、英国から離脱の賛否を問う2回目の国民投票の問題を取り上げた。そのため、同時進行でスコットランドの独立問題が新たな火種となりやすい。

3月5日から中国人民代表大会（全人代）が10日間程度開催される。その年の予算を討議するほか、最終日には1年間の施政方針となる政府活動報告を採択する。公共事業規模に注目が集まる。閉幕後は李克強首相が記者会見を開く見通し。

3月は本邦企業決算が集中することや、海外のイベントリスクも多く上下に大きく動く可能性が高まっている。3月はトレンドが出るというよりも、リスクオン・オフでの動きとなりやすそうだ。特に2月に米国株が連日過去最高値を更新したことから、その反動による下落調整には注意が必要となる。

★3月の主なイベント

- ・3月01日：豪第4四半期GDP、中国2月製造業・非製造業PMI&財新製造業PMI、米2月ISM製造業景況指数、カナダ中銀政策金利公表、アストロ：原油変化日
- ・3月02日：加第4四半期GDP
- ・3月03日：中国2月財新・非製造業PMI、米2月ISM非製造業PMI、アストロ：日経平均変化日
- ・3月05日：中国・全国人民代表大会（全人代）
- ・3月07日：豪RBA理事会、米1月貿易収支
- ・3月08日：日本10-12月期GDP・2次速報、中国2月貿易収支
- ・3月09日：中国2月消費者・生産物価指数、EU首脳会議（10日まで）ECB理事会（スタッフ経済見通し公表）
- ・03月10日：日経平均メジャーSQ、米2月雇用統計
- ・03月12日：アストロ：満月
- ・03月15日：オランダ総選挙、米2月小売売上高・消費者物価、米FOMC結果公表
- ・03月16日：NZ第4四半期GDP、日銀金融政策会合・結果公表、スイス中銀政策金利公表、トルコ中銀政策金利公表、英MPC、米『連邦債務上限の適用』再開
- ・03月17日：G20財務相・中央銀行総裁会議（18日まで）NYダウ・メジャーSQ
- ・03月21日：英2月消費者・生産者・小売物価指数
- ・03月22日：日本2月貿易収支
- ・03月23日：NZ中銀政策金利公表
- ・03月24日：ロシア中銀政策金利公表
- ・03月28日：本邦3月末決算企業・権利付き売買最終日
- ・03月30日：南ア準備銀行政策金利公表
- ・03月31日：本邦決算末、英第4四半期・確報値
- ・03月x x日：EU首脳会議（ローマ条約60周年記念）、英国・リスボン条約発動、トランプ政権・予算教書、暫定版詠出（?）

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。